保健医療福祉論　(Advanced Health Care Welfare)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝、多次 淳一郎	1年次 後 期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	保健医療福祉論では、新規感染症や人口構成の超高齢化など、これからの医療情勢を考慮し、傷病者への取り組みだけでなく、在宅医療や高齢者のQOLの向上に関与できることおよび、国や自治体による新規保健医療福祉計画に対する討論など、医療人として考えるべきことできること・問題点などについて学修する。 （多次淳一郎）社会保険医療制度と保険サービス、QOLを向上する方法について紹介する。 （山口央輝）疾患構造の変化、新規感染症の推移と保健医療制度のあり方について、研究レベルでの紹介する。 実務家教員（山口、多次）が講義を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査学の高度な知識と研究手法を体得し、臨床検査の質向上に向けた研究を遂行することができる。」及び②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 社旗保証制度について説明できる。 2. QOLを向上させる各種の方法論を理解し説明できる。 3. 疾患構造の変化について説明できる。 4. 新規感染症の発生機序・対応する医療制度を説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：第1回時に指示する。（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／毎回の講義の復習を十分行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画			
	第 1 回	疾患構造の変化について 総論	山口央輝
	第 2 回	疾患構造の変化について	山口央輝
	第 3 回	新規感染症の推移について 総論	山口央輝
	第 4 回	新規感染症の推移についてⅠ	山口央輝
	第 5 回	新規感染症の推移についてⅡ	山口央輝
	第 6 回	保健医療福祉のアウトカムⅠ（医療経済の観点から）	多次淳一郎
	第 7 回	保健医療福祉のアウトカムの転換Ⅱ（生活の質（QOL）の観点から）	多次淳一郎
	第 8 回	慢性疾患の増加に伴う課題と支援Ⅰ（疾患管理の観点から）	多次淳一郎
	第 9 回	慢性疾患の増加に伴う課題と支援Ⅱ（病診連携の観点から）	多次淳一郎
	第 10 回	慢性疾患の増加に伴う課題と支援Ⅲ（医療介護連携の観点から）	多次淳一郎
	第 11 回	看取りに関わる課題と支援Ⅰ（介護施設での看取りの課題）	多次淳一郎
	第 12 回	看取りに関わる課題と支援Ⅱ（在宅緩和ケアの観点から）	多次淳一郎
	第 13 回	孤立する人々の課題と支援Ⅰ（健康リスクとしての孤立）	多次淳一郎
	第 14 回	孤立する人々の課題と支援Ⅱ（”みまもり”の研究動向）	多次淳一郎
	第 15 回	保健医療福祉へのICT技術の応用	多次淳一郎

評価方法 評価基準	（山口）レポートで評価する（100%）。 （多次）プレゼンテーション・討議への参加：50%、レポート：50%。		
教科書	教科書は指定しない。	参考書等	文献・資料等は適宜、提示する。
学生への メッセージ	保健医療福祉論は公衆衛生や在宅医療などの問題点を見える化することに役立ちます。WHOの健康の定義や厚生労働省の健康日本21なども参考に学修をしてください。		